

進学指導特色校（GLHS）のパフォーマンス評価について 府立四條畷高校 平成25年度評価シート

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会評価の基準	A…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	------------	--

資料2-1

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
各 学 校 独 自 の 取 組	確かな学力の向上を図る	・基礎学力の向上 ・言語活用能力	継続	学習合宿の実施（1・2年） ※合宿中に英語コミュニケーション集中講座を実施（1年のみ）	参加人数	718人	720人	720人	B	アンケートによる生徒の評価（学習合宿に参加したことに対する満足度）	92%	90% （参加者のほぼ全員）	92%	A	再編	学習活動をさらに充実したものとするため、1・2年の学習合宿の再編を考えるなどの再構築への意欲を評価する。 情報プレゼンテーション大会は、準備から大会での発表に至るまで、生徒の主体的な学習もとして実施できており、情報活用能力の充実とともに満足度も高いものとなっている。英語運用能力についてもTOEIC仕様から、TOEFL iBTへの移行が図られ、受験者増加など、今後の成果が期待できる。 なお、取組指標の自己評価が全般に高くなっており、基準に基づき正確に評価されたい。	A	
		・ICT活用能力	継続	情報プレゼンテーション大会の実施（1年）	参加人数	360人	360人	360人	B	アンケートによる生徒の評価（情報プレゼン大会に向けての取組に対する満足度）	85%	85% （前年度以上）	88%	A	継続			
		・英語運用能力	新規	TOEIC Bridge 受検(2年文理学科と希望者)	受検人数	新規	170人	200人	A	平均得点率	新規	70%	76%	A	再編			
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	継続	海外修学旅行の実施（2年） 学校交流	参加人数	358人	360人	360人	A	アンケートによる生徒の評価（台湾への海外修学旅行全体に対する満足度）	97%	90% （参加者のほぼ全員）	93%	A	継続	台湾への修学旅行が定着し、松山高級学校との交流も継続的に行われている。オーストラリアへの生徒の関心も高く、日常的な国際交流が行われつつあり、生徒の参加への意欲や満足度も高い。 部活動の加入率も90%を超えており、近畿大会に5つの部が参加するなど、「文武両道」の校風は伝統的に引き継がれている。豊かな環境と歴史・文化のある四條畷高校に対し、生徒・保護者の信頼は厚く、学校に協力的であるのが学校の個性ともなっており、今後のさらなる発展に向けて重要な要素となろう。	A	
			継続	オーストラリア研修の実施（1・2年希望者）	希望者数と参加人数	希望者64人から20人を選抜	希望者30人以上から20人を選抜	希望者52人から20人を選抜	A	アンケートによる生徒の評価（オーストラリア研修プログラムに対する満足度）	100%	90% （参加者のほぼ全員）	100%	A	継続			
		・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	新規	探究チャレンジ1（1年文理学科）	作成論文数	160部	160部	159部	B	作成論文が外部の教育賞を受賞すること	受賞数1	2以上 （前年度を上回る）	0本	C	継続			
	高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・規範意識 ・高い志 ・その他	・調査研究活動 高い志	新規	探究チャレンジ2（2年文理学科）	外部でのポスター、プレゼン発表数	新規	10グループ	13グループ	A	アンケートによる生徒の評価（探究活動全体に対する満足度）	新規	90% （2年文理学科のほぼ全員）	81%	C	継続	探究チャレンジ1は外部機関の受賞はならず残念な結果となったが、多くの教員が担当し、学校全体の取組になっている点は評価できる。 また探究チャレンジ2はグループ数を拡大するなど、多岐にわたるテーマを設定、活動できたが、生徒の意識とはやや乖離があるようので、工夫改善されたい。 エネルギーをテーマとしたSSH事業の取組から、再生エネルギープロジェクトに関わって四條畷市との地域交流も始まり、姉妹都市ドイツのメアプッシュ市との交流も今後予定されているとのことで、今後に期待する。	B
			・調査研究活動 高い志	新規	エネルギー探究（1・2年文理学科と希望者）	参加人数	1年全員	1・2年文理学科と希望者	毎回定員を満了した	A	アンケートによる生徒の評価（エネルギー関連施設見学に対する満足度）	90%	90% （参加者のほぼ全員）	94%	A	充実		
			・調査研究活動 高い志	新規	探究チャレンジ2（2年文理学科）	外部でのポスター、プレゼン発表数	新規	10グループ	13グループ	A	アンケートによる生徒の評価（探究活動全体に対する満足度）	新規	90% （2年文理学科のほぼ全員）	81%	C	継続		
	教員の指導力向上をめざす	・進路指導力向上 ・初任者の指導力向上 ・教科指導力向上	・進路指導力向上	継続	民間教育産業と協同したスキルアップ研修	実施回数と参加人数	年3回実施153人	年3回170人	年4回172名	A	アンケートによる教員の評価（スキルアップ研修に対する満足度）	80%	80% （前年度以上）	85%	A	継続	民間を活用したスキルアップ研修に、参加する教員数も増加し、満足度も高まっていることは評価できる。また大学と連携しアクティブラーニングに関する講義を受けるなど外部組織を活用して授業の活性化と取り組めている。初任者に対する指導力向上の取組も「畷プロジェクト」などの活用で継続的組織的に行われていることは評価できる。生徒の授業満足度は高く、訪問時に見学した数学・英語の授業は指導方法に工夫がみられた。今後も、高い授業力を持つ教員が他の教員に方法論を伝えていくような取組を一層進めてもらいたい。	A
			・初任者の指導力向上	新規	探究チャレンジ2（2年文理学科）	外部でのポスター、プレゼン発表数	新規	10グループ	13グループ	A	アンケートによる生徒の評価（探究活動全体に対する満足度）	新規	90% （2年文理学科のほぼ全員）	81%	C	継続		
			・教科指導力向上	継続	教員間の授業公開	実施回数	1回目は各教科全員、2回目は各教科1名以上、その他(他校への授業見学)	1回目は各教科全員、2回目は各教科1名以上	1回目全員 2回目ICT活用教員代表3名	A	授業満足度	80%	80% （前年度以上）	84%	A	継続		
共 通 評 価 項 目	総合的な学力の測定	・読解力リテラシー ・科学的リテラシー	継続	学力診断共通テストの結果						学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-	-	-	学力の伸びはどの教科も一定保っており評価できる。さらに、全体的なレベルアップを期待する。	-	
		・英語運用能力	継続	英語によるコミュニケーション能力の育成							外部のコンクール・コンテストに入賞すること	入賞1名	入賞2名	7名	A	目標値を上回る入賞となり、出展し続けている点など評価できるが、世界大会、全国大会などさらに数多くの出場、入賞をめざしてほしい。（別紙参照）	-	
		・進路実現	継続	3年間を見通した進路指導							進路希望を把握し、卒業時に達成率を調べる	66%	60%	66%	A	TOEIC、TOEFLへの取組は早くから実施しており、受検者数も増加させている。今後はさらに指導を充実させ、展開してもらいたい。（別紙参照）	-	
		・進路実現	継続	大学入試センター試験の参加							大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率80%以上	11.3%	15%	15.5%	B	進路達成率、大学入試センター試験の5教科7科目受験者の高得点率、受験者数（割合）のいずれの項目においても目標値を上回っていることは評価に値する。今後は高得点者の割合の増加をめざすなど、さらなる充実を期待する。	-	
		・進路実現	継続	大学入試センター試験の参加							大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数（割合）	81%	84%（300名）	85%	A			
		・進学実績	継続	大学合格者数							難関10国立大学(旧7帝大、一橋、東京工業、神戸)現役・浪人合格者数	69人	80名	90名	A	難関10国立大学(旧7帝大、一橋、東京工業、神戸)現役・浪人合格者数、国公立現役進学者数ともに目標を上回っている。とくに、現役の難関大への合格者が増加している点を評価したい。これからも高い志をもって、指導にあたらせたい。	-	
		・進学実績	継続	大学合格者数							国公立大学現役合格者数	106人	120名	131人	A			
		・進学実績	継続	大学合格者数							海外大学現役合格者数	0人	-	0人	-			
		・進学実績	継続	大学合格者数														
		・進学実績	継続	大学合格者数														
総合評価	部活動の加入率も高く、近畿大会に5つの部が参加するなど、「文武両道」の校風は伝統的に引き継がれている。一方で学習活動をさらに充実したものとするため、1・2年の学習合宿を再構築するなど、積極的な改革への姿勢には可能性を感じる。大学と連携しアクティブラーニングに関する講義を受けるなど、本質的な授業改善への取組が実施できており、今後も継続して進展させてほしい。豊かな環境と歴史・文化のある四條畷高校に対し、生徒・保護者の信頼は厚く、協力的であるのが学校の個性、また発展に向けて重要な要素となっており、今後の躍進に期待するものである。															A		

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会評価の基準	AA…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	------------	---

資料2-2

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
各 学 校 独 自 の 取 組	確かな学力の向上を図る 【小項目（育みたい力）】 ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	・言語活用能力 ・ICT活用能力	新規	英語運用能力・プレゼンテーション能力および科学的リテラシーの向上 ①岸高インテンシブ英語研修の実施 ②英検実施 ③TOEFL道場(新規)	・参加人数	①124名(夏51名、冬73名) ②英検110名	①120名以上 ②80名 ③40名	①95名(夏65名、冬35名) ②98名 ③40名	A	アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見)	80%	80%以上	90%以上	A	継続	問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、規範意識、協調性、豊かな人間性など、生徒に育成したい能力プログラムを開発。3年間の教育活動の意義と目的が一目瞭然となる「岸和田高校人材育成プログラム」は、教員のみならず、生徒に対しても学習の目標を明確にしておき、また年々改良を加えるなどすばらしい取組である。土曜日の「学習タイム」や特進ゼミ、食堂まで利用して場所を確保している自習室など、親身になって生徒を指導していることがわかる。教員の生徒を見る目が家族のようで、岸和田ならではの面倒見の良さであろう。英語運用能力に関しては、オールイングリッシュで行う英語研修や、TOEFL道場など新規の内容も加えており、それぞれの取組に関しては生徒の評価も高い。家庭学習量増加については継続して取り組んでおり、今後もその充実を期待したい。	A	
		・学習習慣の定着	充実	土曜の午前の活用 ・特進ゼミ(土曜講習)実施(千亀利セミナーの実施)	・特進ゼミ(土曜講習)実施日数(千亀利セミナーの実施日数)	・24日	・25日以上	・33日	A	アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見)	80%	80%以上	80%	B	充実			
	豊かな感性を、たくましく生きるための健康と体力をはくむ	・違いを認め共に生きる力 ・共感性 ・協調性	充実	人間関係づくりと豊かな人間性の涵養 ①オーストラリア語学研修の実施 ②岸高祭の開催 ③人権HRの実施 ④台湾修学旅行の実施	①オーストラリア語学研修参加者人数 ②岸高祭の観客動員数 ③人権HRの実施回数 ④参加人数	①30名 ②2500名 ③3年間で4回 ④320名	①30名 ②2500名以上 ③3年間で4回 ④320名	①30名 ②4000名以上 ③3年間で4回 ④320名	A	アンケートや感想による生徒の評価(肯定的な意見)	88% ほぼ全員が肯定的な評価をした。	80%以上	90%以上	A	継続	台湾の高校との姉妹校提携やオーストラリア語学研修のほか、韓国をはじめとして積極的に海外の高校生を受け入れるなど、関西空港に近い地の利を生かして国際化に努めている。部活動の加入率は97%と極めて高く、各種の学校行事についても熱心に取り組んでいる。さらに、多くの取組について情報発信を重視し、校長ブログやメールマガジン、マスメディア(テレビ取材など)を活用。保護者へのプリントはすべてWEBで公開し、その情報発信の即時性とボリュームから保護者の信頼を得ており、家庭との連携の密度の高さからも、安定した生徒指導の一助ともなっている。	AA	
		・健康・体力をはくむ	継続	クラブ活動の振興と学校行事の充実 ①クラブ活動の活性化 ②体育祭の実施 ③鍛錬適足の実施	①クラブ加入率 ②体育祭参加率 ③鍛錬適足参加率	①96.8% ②新規 ③98%	①2③ 共に95%以上	①97.5% ②98%以上 ③98%以上	A	①アンケート感想によるクラブ満足度 ②行事満足度(肯定的な意見)	生徒の感想はおおむね良好	①②共に80%以上	①②共に90%以上	A	継続			
	高い志をはくむ、進路実現をめざす	・進路実現 ・高い志	充実	夢、希望、高い志をもたせる講演などの企画 ①進路講演の実施 ②出前授業の実施 ③主要大学オープンキャンパスへの参加促進(1年生)	①実施回数 ②-1のべ授業授業参加人数 ②-2講座数 ③参加人数(360人)	①6回 ②-1 1360名 ②-2 20講座 ③新規	①6回 ②-1 1360名 ②-2 20講座 ③1年生全員	①6回 ②-1 1360名 ②-2 21講座 ③1年生全員	B	①現役国公立大学合格者数 ②関東の大学への合格者数	①124名 ②16名(内・現役4)	①130名 ②10名	137名 10名	A	継続	現役で国公立大学合格にこだわること、また地元志向が高い現状があるが、生徒や保護者の意識改革と学習意欲を高めるため、東京大学、京都大学をはじめとした難関大学への大学訪問や大学教員による出張講義などを行っている。生徒に対しては進路や大学の情報を十分に伝え、結果的に進学実績は上がってきている。地域の力、卒業生、学校周辺の環境などをうまく教育活動に生かしており、良い意味での地域色が醸され、学校の特色となっている。	A	
		・規範意識	継続	自分を大切に、他の人も大切にする心の涵養と規律・規範の確立 ①朝の挨拶運動の実施 ②登校指導の実施	実施回数	①年100回 ②年50回	①年100回以上 ②年50回以上	①年120回以上 ②年60回以上	A	アンケートや感想による①生徒・②保護者の評価(肯定的な意見)	①80.3% ②91.1%	①②共80%以上	①78% ②90%	A	継続			
	教員の指導力向上をめざす	・授業力向上	継続	公開授業週間の設定 生徒の授業アンケートの実施 ①公開授業週間の設定 ②生徒による授業評価実施 ③ICT機器の活用	①教科毎に1週間 ②年間2回 ③活用教員数	①教科毎に1週間 ②年2回	①教科毎に1週間 ②年2回 ③15名	①教科毎に1週間実施 ②年2回 ③15名	B	授業満足度(授業アンケート)	84%	80%以上	78%	B	充実	教員の指導力向上に関しては、教師が挑戦するという姿勢が重要な(校長談)という考えのもと、教員が一丸となって授業力の向上に取り組んでいる。ICTなどの活用も積極的にできている。教員の40%が卒業生であり、みな愛校心があり、生徒に対する思い入れも強い。経験の浅い教員も増加しているが、同時に活性化にもつながっている。継続して授業改善に努めており、今後も管理職のマネジメント力を発揮して教員の指導力を高める取組を進めてもらいたい。なお、キャリアスタートゼミの満足度が低くなった要因を分析し、改善されたい。	A	
		・教材開発	新規	学習コンテンツの開発①2年生探究発表	①探究発表本数(①-1口頭発表本数、①-2ポスター発表本数) ②キャリアスタートゼミのメニュー作成	①-1口頭発表6本 ①-2ポスター発表30本	①-1口頭発表6本以上 ①-2ポスター発表30本以上 ②メニュー開発	①-1 10本 ①-2 80本 ②メニュー開発	A	キャリアスタートゼミの満足度	80%	80%以上	60.0%	B	充実			
	共通評価項目	・総合的な学力の測定	学力診断共通テストの結果								学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-			学力の伸長については、いずれの教科もめざましく、高く評価する。	-
		・読解力リテラシー ・科学的リテラシー	全国規模のコンクール・コンテスト等の実績								全国規模のコンクール・コンテスト等の参加者	17名	15名以上	34名	A	継続	参加者の増加のみならず、入賞などの成果を期待する。(別紙参照)	-
・英語運用能力		英語によるコミュニケーション能力の育成								①英検：合格者 ②インテンシブ英語研修における会話力伸び率 ③TOEFL-iBTの得点	①2級28名、準2級43名 ②経験者118% 新規128%	①2級40名、準2級50名 ②経験者120%、新規130% ③50点以上3名	①2級22名、準2級33名 ②業者変更により測定不能 ③50点以上0人	C	継続	英語検定からTOEFL仕様へ移行中とのことだが、TOEFL-iBTの受験はならず残念な結果となった。今後の取組の充実を求める。(別紙参照)	-	
・進路実現		3年間を見通した進路指導								進路希望(国公立、私大、短大、専門学校、就職)達成率。3学年4月の進路希望(国公立、私大、短大、専門学校、就職)と翌年3月末での進路を比較して判定。	143名(40.1%)	180名(50%)	158名(43.9%)	B	充実	進路希望達成率、大学入試センター試験の5教科7科目の得点率80%以上の受験者数については、前年度実績を上回ったものの、目標値を高く設定していたことがあり、目標達成は果たせなかった。しかし学校全体に進路実現を確実なものにしようという気運が感じられる。進学大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数(割合)についても、継続して高めるよう指導の継続を望む。	-	
		大学入試センター試験の参加								大学入試センター試験の5教科7科目の得点率80%以上の受験者数(割合)	19名(7.1%)	38名(10.6%)	33名(文11名、理22名)(9.2%)	A	継続			
										大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数(割合)	268名(75.1%)	288名(80%)	255名(71.1%)	B	充実			
・進学実績		大学合格者数								国公立大学&主要私大(早稲田・慶応・上智・東京理科大学・MARCH・関関同立・京大・同女・薬学部・歯学部・医学部)現役進学者数	188名(52.7%)	200名(55.6%)	215名(59.7%)	A	継続	国公立大学&主要私大の現役進学者数、国公立大学現役合格者数、ともに目標を上回った成果は称賛に値する。生徒の気質や家庭環境等もあろうが、GLHSとして現役合格にこだわらず、志を高く、さらなる高みをめざしてほしい。	-	
									国公立大学現役合格者数	124名	130名	132名	A	継続				
									海外大学現役合格者数	0%	-	0名						

総合評価	3年間の教育活動の意義と目的が一目瞭然となる「岸和田高校人材育成プログラム」は、生徒に対しても学習の目標を明確にしておき、また年々改良を加えるなどすばらしい取組である。土曜日の「学習タイム」や特進ゼミ、年中開放した食堂まで利用して場所を確保している自習室など、面倒見良く、親身になって指導していることがわかる。部活動の加入率は97%と極めて高く、各種の学校行事についても熱心に取り組んでいる。その多くの取組について情報発信を重視し、校長ブログやメールマガジン、マスメディア(テレビ取材など)を活用し、家庭との連携にも役立てており、安定した生徒指導の一助ともなっている点は高く評価する。進路実現、進学実績ともに成果を上げたことは、これまでの取組が実を結んだ証である。今後の更なる躍進に大いに期待する。	A
------	---	---

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会評価の基準	AA…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	確かな学力の向上を図る	・基礎学力の向上 ・学習の集中力養成	充実	勉強合宿（1、2年）の実施	1、2年の参加者数	1、2年合計120人	1、2年合計440人	1、2年合計450人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	97%	95%（参加者のほぼ全員）	93%	B	再編	「しなやかで心折れない精神力」をはぐくむため、社会貢献力、探究力、表現力の育成を重視するという目標のもと、勉強合宿、土曜講習、英語リスニング講習、TOEFL講習などの取組が、うまく活用できている。また、それぞれの取組に対する生徒の満足度も高い。目標が焦点化され、着実に成果を上げており、進学実績などにも現れてきている。今後、取組の成果と課題をさらに検証しつつ、次のステップを刻み、成果の拡大を図ってもらいたい。	A	
		・基礎学力の向上	充実	土曜講習の実施	講習実施回数 参加人数	14回 750人	12回 800人	12回 770人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	74%	80%（前年度を上回る）	83%	A	充実			
		・学習内容の定着	充実	夜の質問会	実施回数 延べ参加人数	28回 1270人	30回 1400人	31回 1230人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	81%	90%（参加者のほぼ全員）	79%	B	充実			
		・英語運用能力	再編	リスニング講習 TOEFL講習	講習参加者数	215人	300人	265人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	98%	100%（参加者の全員）	94%	B	再編			
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・共感性 ・協調性	充実	授業成果発表会の実施（豊高プレゼンテーション）	発表件数	14本	15本	16本	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	80%	85%（前年度を上回る）	92%	A	充実	昨年より実施している授業成果発表会（豊高プレゼン）は、『課題研究は生徒の学びに関する興味関心を高めることから、進路実現につながる』という理念に基づき実施されている。発表機会が増えるだけでなく、生徒・保護者にとって、一年間の取組と成果が共有される機会となっている。また、全教員が関わるため、旧来の授業を行いがちな教員への刺激ともなっており、よい実践である。異文化理解では、英語によるプレゼンテーションの実施、留学生との交流、さらに英語以外での交流も行っており、生徒の海外への関心を高めていることなど高く評価する。	AA	
		・協調性 ・健康・体力をはぐくむ	継続	スキー、スノーボード講習会の実施	講習参加者数	114人	120人	115人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	98%	95%（参加者のほぼ全員）	96%	B	継続			
		・違いを認め共に生きる力	再編	英国語学研修	研修参加者数	34人	35人	29人	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	92%	95%（参加者のほぼ全員）	97%	A	継続			
		・違いを認め共に生きる力	継続	異文化交流会の実施	・2年参加人数 ・生徒のプレゼンテーション 作成本数	・360人 ・9本	・360人 ・10本	・360人 ・9本	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	92%	95%（参加者のほぼ全員）	96%	A	充実			
	高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・高い志をはぐくむ ・規範意識	充実	地域交流活動、ボランティア活動の推進	活動人数	550人	600人	830人	A	感想による生徒の評価（肯定的な意見）	85%	90%（参加者のほぼ全員）	94%	A	充実	地域交流活動やボランティア活動などの参加人数の増加にはめざましいものがある。加えて、現状に甘んずることなく、さらなる機会を増やすなど、積極的に取り組む姿勢は高く評価できる。土曜セミナーについても、昨年度実績や目標値を上回る回数の実施など、充実してきている。自治会活動や学校行事においても、生徒一人ひとりに応じた丁寧な指導が行われており、今後の生徒の伸長が期待できる。	A	
		・高い志をはぐくむ	充実	土曜セミナーの実施	実施回数	8回	11回	11回 +土曜以外7回	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	77%	80%（前年度を上回る）	86%	A	再編			
		・高い志をはぐくむ	新規	自治会活動におけるリーダー育成	研修等実施回数	新規	2回	4回	A	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	新規	90%（参加者のほぼ全員）	86%	B	継続			
		・高い志をはぐくむ	充実	各界で活躍している方による講演会の実施	講演会の回数	7回	8回	7回	B	アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	88%	90%（参加者のほぼ全員）	87%	B	充実			
	教員の指導力向上をめざす	・授業力向上	充実	生徒による授業評価アンケート実施	実施回数	2回	2回	2回	B	生徒授業アンケート結果（肯定的な意見）	81%	85%（前年度を上回る） 生徒の自己評価	第1回82% 第2回82%	B	継続	授業評価では第1回目のアンケート結果を検証し、フィードバックさせるPDCAサイクルが確立できている。結果として、2度目のアンケートでは高い評価が増加しており、この取組は今後も継続されたい。また授業公開も期間を広げるなど、積極的に実施し、保護者の意見をくみ上げ、授業改善に活用している。これらのことから、指導力向上の成果は上がってきている。今後も、現在の実施方法など精査しながら、全教員が一丸となって、改善に取り組み、充実を図ってもらいたい。	A	
		・授業力向上	充実	保護者等への授業公開実施	保護者等の参加人数	320人	400人	420人	A	アンケートや感想による保護者の評価（肯定的な意見）	75%	80%（前年度を上回る）	80%	B	充実			
		・授業力向上	新規	外部講師による研究授業と協議 全教員による研究授業と研修	研究授業実施教員数	新規	15人	29人	B	生徒授業アンケート結果（肯定的な意見）	81%	85%（前年度を上回る） 生徒の教員評価	第1回76% 第2回78%	B	充実			
共通評価項目	・総合的な学力の測定		学力診断共通テストの結果							学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-	-	-	-	英語運用能力をはじめ、各教科のスコアには大きな伸びが見られた。ただ、入学時の学力からは、もっとスコアの伸びがあってもいいのではないかとと思われる。	-
	・読解力リテラシー ・科学的リテラシー		全国規模のコンクール・コンテスト等の実績							科学系オリンピック・コンテスト等の入賞数	入賞2グループ	入賞3グループ	入賞2グループ	B	継続	国際的な大会に入賞するなど、よい取組ができている。（別紙参照）	-	
	・英語運用能力		英語によるコミュニケーション能力の育成							・英検2級の資格取得者数 ・TOEFL、TOEIC受験者数	11名 8名	30名 13名	14名 25名	B	充実	英検、TOEFL、TOEICのいずれも受験しており、今後はその拡大に期待する。（別紙参照）	-	
	・進路実現		3年間を見通した進路指導								進路第1希望受験率（年度のはじめに進路希望を把握し、卒業時にその受験率を調べる）	新規	50%	48%	B	充実	大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数が増加し、高得点を取った生徒の増加など、成果があらわれてきている。今後は進路のバラエティを増やすことも含め、さらなる充実を期待する。	-
			大学入試センター試験の参加								大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率80%以上	8%	13%	18.50%	A	充実		
	・進学実績		大学合格者数								難関国立大学（京大、阪大、神大） 現役・浪人合格者数	53名	65名	76名	A	継続	難関国立大学（京大、阪大、神大）への現役・浪人合格者数が増加し、目標を上回った点は評価できる。今後も、たゆむことなく、さらに希望の進路実現をはたす生徒が一人でも多くなるよう努められたい。	-
												国公立大学現役合格者数	95名	110名	121名	A	継続	
											海外大学現役合格者数	0名	-	0名	-	再編		

総合評価	「しなやかで心折れない精神力」をはぐくむため、社会貢献力、探究力、表現力の育成を重視するという目標のもと、基礎学力を向上させる様々な取組が、うまく活用されており、生徒の満足度も高い。2年目の授業成果発表会（豊高プレゼン）も、充実が見られ、生徒・保護者にとって、一年間の取組と成果が共有される機会となっている。授業アンケートに関するPDCAサイクルの確立、授業公開の拡大など、授業改善にも積極的に取り組み、指導力向上の成果は上がってきている。今後も、GLHS校として、また地域に根差した伝統校として、さらなる展開に期待する。	A
------	---	---

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会評価の基準	AA…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	------------	---

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
各 学 校 独 自 の 取 組	確かな学力の向上を図る	・言語活用力 ・ICT活用力	充実	プレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーション発表者数	190人	200人	350人	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	95%	95%	97%	A	継続	AA	コミュニケーション力を高めることを目的に、学習活動、行事ともに実践を重視し、自らの心を探るカリキュラム、指導方法が確立されてきている。小テスト、土曜講習も多く実施され、基礎学力の向上にむけた取組も着実に実績を上げている。とくに補習は学力に応じ2種類実施するなど、きめ細やかな指導ができています。勉強合宿も希望制でありながら、参加者も多く、生徒の評価も極めて高いものとなっている。これまでは各取組において拡大、拡張をめざしてきたと思われるが、今後は、洗練と深まりを求め、さらなる発展を期待する。	
		・基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加人数	604人	600人	1170人	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	100%	95%	98%	A	継続			
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・違いを認め共に生きる力 ・紛争を解決する力	充実	異文化理解教育の実施	海外スタディーツアーおよび イングリッシュキャンプ参加者数	140人	150人	164人	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	92%	95%	98%	A	継続	A	放課後に多くの生徒が練習するコーラス大会や、水泳訓練、マラソンなど、伝統的に学校行事を大切にしており、部活動加入率も90%を超えている。英国ヘンクワイス高校との交流をはじめ、来日高校生、留学生との交流、高校生国際会議の実施など、国際理解に対する取組が継続的に行われている。シンガポール等への海外スタディーツアー、イングリッシュキャンプについても、目標値を上回る参加者が、肯定的に評価している。 このように生徒には国際的な視野が育てられてきているが、さらにグローバルリズムを意識し、異質な他者との出会いを経験させる取組についても実施してもらいたい。	
		・共感力 ・協調性 ・健康・体力をはぐくむ	継続	集団づくりの取組み	野外生活体験学習の参加者数	360人	360人	364人	B	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	90%	90%	90%	B	再編			
	高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・規範意識	新規	挨拶運動の推進 ボランティア活動の推進	挨拶運動の教員参加数 リレフォーライフの実施 大阪マラソン ボランティア	新規	200人	512人	A	生徒へのアンケートや感想による評価、および教員による生徒の評価 (肯定的な意見)	新規	90%	95%	A	継続	A	がん患者を救うための24時間チャリティウォーク、リレフォーライフに参加するなど、規範意識とともにボランティア精神・社会貢献の意識を高める活動ができています。 2年サマースクールや1・2年の集中セミナーの実施、英語運用能力を高める取組なども行われており、各界リーダーの卒業生による講演会は内容の充実とともに回数も増加し、生徒の肯定的意見も安定して高くなっている。 今後は自己を深く掘り下げるような経験ができる機会をどのように与えるかなど、進路意識の内化が求められよう。	
		・高い志をはぐくむ	継続	各界リーダーによる講演会の実施	OB・OGによる講演会の回数	47回	50回	58回	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	98%	95%	96%	B	充実			
	教員の指導力向上をめざす	・授業力向上	充実	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	実施回数(駿台教科指導研究会参加、大学教授による教科指導研究会)	12回	15回	26回	A	授業満足度(授業評価実施)	85%	85%	82%	B	継続	A	民間教育産業と共同したスキルアップ研修、外部模試の後の分析会や振り返りを行うなど、外部人材の活用がうまくできている。大学との共同による教科指導研究や、経験の浅い教員を対象とした研修会など、授業力向上に向けて、組織的な取組が進んでいる。 進路指導についても、キャリアガイダンス、東京研修など、様々な機会をとらえ、行われている。 電子黒板の導入により、ICT機器の活用の促進など、授業改善が進められている。授業満足度の目標設定が85%と高く設定されているものの、ほぼ目標を達成しており、評価に値するが、今後もさらなる高みをめざしてほしい。	
		・教材開発	継続	学習教材の開発	学習支援システムへのコンテンツの開発	6本	6本	16本	A	授業満足度(授業評価実施)	85%	85%	86%	A	継続			
	共通評価項目	・総合的な学力の測定	学力診断共通テストの結果								学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-	-	-	-	各教科ともにスコアが伸びており、とくに読解力と英語運用能力にめざましい伸びがみられる。今後も指導法の工夫などを続けられたい。
		・読解力リテラシー ・科学的リテラシー	全国規模のコンクール・コンテスト等の実績								全国規模のコンテスト参加者数、及び全国規模の発表会での発表者数	93人	100人	128人	A	継続	-	参加者数、発表者数ともに、学校全体で取り組んでいることがわかる。さらに、全国大会への出場など、実績を上げてもらいたい。(別紙参照)
		・英語運用能力	英語によるコミュニケーション能力の育成								海外スタディーツアーおよびイングリッシュキャンプ参加者数	140人	150人	164人	A	継続	-	海外スタディーツアーおよびイングリッシュキャンプ参加者数は目標を大きく上回っており評価できるが、今後は外部検定試験などの受験者数を伸ばすなど、英語運用能力を高める取組を多面的に実施してもらいたい。(別紙参照)
		・進路実現	3年間を見通した進路指導	大学入試センター試験の参加								国公立大学進学者数(現浪合わせ)	246人	288人	240人	B	継続	-
											大学入試センター試験5教科7科目の現役受験者の得点率80%以上	19.9%	25%	25.8%	A	継続		
											大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数(割合)	91.9%	92%	91.1%	B	継続		
・進学実績		大学合格者数									東大・京大・阪大・神大現役・浪人進学者数	121人	130人	110人	B	継続	-	東大・京大・阪大・神大現役・浪人進学者数及び国公立大学現役合格者数とともに、目標には達しないまでも、一定の高い水準で維持できている点は評価できる。これからも高い志をもって、進路指導に取り組んでいただきたい。
										国公立大学現役合格者数	153人	161人(45%)	140人	B	継続			
										海外大学現役合格者数	1人	-	0人	-	継続			

総合評価	「たかき理想(のぞみ)」「つよき信念(まこと)」の建学精神のもと、コミュニケーション力育成を目的に、自らの心を探るカリキュラム、指導方法が確立されてきている。基礎学力の向上にむけた取組も着実に実績をあげ、学力に応じて補習を行うなど、きめ細やかな指導体制も構築されている。また、外部人材を活用した研修、分析会、大学との共同による教科指導研究など、授業力向上への取組も着実に進められている。進学実績については、高い目標値を掲げているため、達成できないまでも、よく健闘しており評価に値するが、今後もこれまで通り高みをめざし、さらに発展されることを期待する。	A
------	---	---

進学指導特色校（GLHS）のパフォーマンス評価について 府立天王寺高校 平成25年度評価シート

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会 評価の基準	A A…きわめて高い成果をあげている A …成果をあげている B …取り組んでいるが工夫改善の余地がある C …取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	----------------	---

資料2-5

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																コメント	評価		
各 学 校 独 自 の 取 組	確かな学力の向上を図る <small>小項目（育みたい力）</small> ・言語活用能力 ・ICT活用能力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	自学自習の確立	充実	桃陰セミナー、部学習日など（勉強は学校で、自学自習の習慣づけ）	桃陰セミナー部学習実施数	22回 20回	23回 23回	桃陰セミナー22回 部学習日21回	B	桃陰セミナー1日当たりの平均参加者数 部学習日の各部ごとの実施回数	桃陰セミナー参加者1日平均333名	300名 運動部全クラブで年10回	桃陰セミナー参加者1日平均320名 全運動部で年10回部学習日を実施	B	充実	「チーム天王寺」を掲げ、桃陰セミナー（土曜日に多数の卒業生が質問に答える）など集団での学びを重視しており、学校として成熟したふれない体制ができています。 教科についても教員が教科単位で考えて授業するように運営が組織化されている。また生徒の3年間を見通し、進路を実現化するための「天高スタンダード」の継続と改良は評価に値する。「天模試」とその対策用冊子など、毎年更新を重ねている自主教材についても、学力育成に機能しており、今後も継続し充実させてほしい。 自学自習に関しては、運動部に期待するなどの向きもあるが、自律性をどこまで育てるのかが、今後の課題であろう。	AA		
		基礎学力の確立・充実	充実	天高スタンダードの確立と達成（本校で各学年で達成する学力基準） ⇒ 達成度の点検と未達成者への補習・講習	スタンダード達成基準の見直し 指名補習の実施	全科目スタンダードを作成 指名補習を定期考査ごとに実施	全科目考査毎4～5回 （国、数、英）	自主教材の作成（国・世・数・化・英） 指名補習を定期考査ごとに実施	A	スタンダード達成基準の明確化 自主教材の作成	3年通じての学力育成プログラム作成 自主教材の作成（国世数化英）指名補習考査ごと4～5回実施	5教科（国世数化英）	自主教材の作成（国・世・数・化・英）指名補習考査ごと4～5回実施	A	充実				
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	人権意識、共感力の育成	維持	天高育成プログラムで示される力の育成 各種講演会、ワークショップの実施	各種講演会の回数 ワークショップの回数	人権講演会4回 1年1回、3年2回のワークショップ、2年1回の見学会実施	4回 4回	人権講演会4回実施 1年1回、3年2回のワークショップ、2年1回の見学会実施	B	講演会毎の生徒アンケート感想文等による満足度	90%	90%	90%	B	継続	「天高育成プログラム」に3学年の行事や取組を位置付け、有機的に運営し、教員と生徒がその意味を理解して教育活動を行っていることは素晴らしい。 読書ノートなどは、学校の伝統として生徒に引き継がれ教員にも浸透しておりよい取組である。 「文武両道」「鍛錬主義」「質実剛健」の教育実践として、伝統ある運動会、水泳訓練、水道や電気の通っていない山荘での宿泊研修など、「ワイルドな天高生」が培われる校風がある。 ただし「全人教育」を進めているとはいえ、強者の教育に偏っている面も向き、「精神的にしんどい」者への配慮を含め、人権教育の取組の充実が求められる。	A		
		チームでの取り組み	維持	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習 水泳訓練 金剛登山 徒歩訓練 長距離走などの実施	天高育成プログラムで示される力の向上につながる各行事のマニュアル作成と実行	すべての行事を計画通り実施	計画行事の実施	すべての行事を計画通り実施。生徒の行事に対する満足度87%（学校教育自己診断より）	A	行事毎の生徒アンケート感想文等による満足度	90%	90%	90%	B	継続				
	高 い 志 を は ぐ く み 、 進 路 実 現 を め ざ す	規範意識の陶冶と自尊感情の育成	充実	早朝ホームルームの実施 TPOに応じた服装（標準服）着用	早朝HRの実施状況	全クラス早朝HR実施	全クラス実施	遅刻者数 前年比 113減少 （1月末3学年合計） 約5%減少 標準服未着用者少数	B	年間遅刻者数 集会や外部の行事における服装	遅刻者数総計2421 （前年比659増加） 標準服未着用者少数	前年比10%削減 校外での行事の標準服着用	遅刻者数 前年比 約5%減少 標準服未着用者少数	C	充実	進学を目的とするのみでなく、大学入学後どんな学びをするのかということを生徒に示し、高い志をもつよう指導する体制ができています。 様々な分野で活躍する人による講演会「天高アカデミア」、ケンブリッジ・ハーバード・南カリフォルニアの海外研修海外セミナーツアーやオーストラリア派遣などの取組は、生徒の満足度も高く、評価できる。 遅刻者数については朝のHR実施が定着し少しずつではあるが成果として表れてきており、今後も継続して取り組んでほしい。	A		
		高い志の育成	充実	大阪大学、京都大学見学会 社会人講演会、職場見学会 学部・学科紹介などの実施 天高アカデミア（講演会）の実施	見学会や講演会などの実施回数 参加者のアンケート、感想文	すべての行事を計画通り実施	計画行事の実施	行事を計画通り実施し、かつ新たに「アップリッジ・ハーバード・南カリフォルニア」への海外研修や「アップリッジ」も実施した	A	講演会毎の生徒アンケートおよび学校教育自己診断によるアンケートの参加生徒満足度	92～93%	90%	90～92%	A	充実				
		研究授業 授業参観の実施	充実	各教科研究授業の実施 6月、11月に授業公開週間設置	研究授業実施 授業見学者数1人当たり平均回数	各教科研究授業1回 授業見学者延べ515回（平均4回）	全教科5回	各教科研究授業10回 授業見学者延べ474回（平均4回）	B	授業アンケートや学校教育自己診断によるアンケート（授業に関する）の生徒満足度	85%	85%	86%	A	充実				
	教 員 の 指 導 力 向 上 を め ざ す	他府県先進校の 見学 教科指導研究会 の実施	充実	先進校の視察による授業参観教材集 等の情報収集 外部講師による指導法講座の実施	他府県視察校数（人数） 外部講師による指導法研究会回数	他校視察6回、指導法研究10回を実施し、各教科や職員会議で発表	3校（6名） 4回	他校視察4回、指導法研究8回	A	学校教育自己診断によるアンケート（授業や教材・教え方に関する）の生徒満足度	85%	85%	87%	A	充実				
		教員の指導力向上をめざす	充実	各教科研究授業の実施 6月、11月に授業公開週間設置	研究授業実施 授業見学者数1人当たり平均回数	各教科研究授業1回 授業見学者延べ515回（平均4回）	全教科5回	各教科研究授業10回 授業見学者延べ474回（平均4回）	B	授業アンケートや学校教育自己診断によるアンケート（授業に関する）の生徒満足度	85%	85%	86%	A	充実				
	知 識 基 盤 社 会 を リ ー ド す る 人 材 の 育 成	共通評価項目	総合的な学力の測定		学力診断共通テストの結果						学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-			いずれの科目でもスコアに大きな伸びが見られ、高い学力が育まれていることがわかる。	-	
読解力リテラシー 科学的リテラシー				全国規模のコンクール・コンテスト等の実績							科学系オリンピック・コンテストの受験者数	63名	70名	103名	A	充実	科学系オリンピック・コンテストに多くの生徒が出場した。また、生物オリンピックでは、予選の上位10%に入賞、数学オリンピックの予選にも1名が通過するなど質の高い展開がされている。（別紙参照）	-	
英語運用能力				英語によるコミュニケーション能力の育成							TOEIC・TOEFLの受験者数	56名	60名	75名	A	充実	TOEIC・TOEFLの受験者数は目標値を越えており、評価できるが、今後さらに受験者数を増加させるなどの展開を期待する。（別紙参照）	-	
進路実現			3年間を見通した進路指導									難関国公立大学（東大・京大・阪大・医学部医学科）現役・浪人受験者数	329名	350名	304人	C	継続	目標設定が極めて高いため、難関国公立大学（東大・京大・阪大・医学部医学科）現役・浪人受験者数の実績は目標に届かなかったものの、その健闘は評価に値する。今後も高い志をもって受験する体制、進路実現を可能とする組織的な指導の継続を取り組むとともに、さらなる伸びを期待する。	-
			大学入試センター試験の参加									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数（割合）	92.4%	94%	94.7%	A	継続		
進学実績			大学合格者数									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率80%以上	21.4%	23%	31.1%	A	充実		
										難関国公立大学（東大・京大・阪大・医学部医学科）現役・浪人合格者数	132名	140名	120名	C	充実	国公立大学現役合格者数（3年在籍者に対する割合）はほぼ前年実績と同程度となったが、難関国公立大学（東大・京大・阪大・医学部医学科）現役・浪人合格者数とともに、目標値を達成できなかった。目標の高さによるものではあるが、受験も団体戦ととらえ、チーム天王寺として高みをめざす取組は今後も継続されたい。	-		
										国公立大学現役合格者数	137名	158名（44%）	132名	B	充実				
									海外大学現役合格者数	0名	0名	0名	B	継続					
総合評価	「天高育成プログラム」に3学年の行事や取組を位置付け、有機的に運営し、教員と生徒がその意味を理解して教育活動を行っていることは素晴らしい実践である。進路を実現化するための「天高スタンダード」の継続と改良は高く評価されるものである。教科についても教員が教科単位で考えて授業するように運営が組織化され、毎年更新を重ねている自主教材についても、学力育成に機能しており、今後も継続し発展させてほしい。「文武両道」「鍛錬主義」「質実剛健」の教育実践として、伝統ある運動会、水泳訓練、水道や電気の通っていない山荘での宿泊研修など、「ワイルドな天高生」が培われる校風を大切にされ、本質的な「全人教育」の充実にあたられたい。今後も揺るぐことのない高い志をもって、進路実現を可能にする、日本一の公立高校を標榜され、さらなる高みをめざしていただきたい。															AA			

進学指導特色校（GLHS）のパフォーマンス評価について 府立生野高校 平成25年度評価シート

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会 評価の基準	AA…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	----------------	---

資料2-6

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価			
																コメント	評価		
各 学 校 独 自 の 取 組	確かな学力の向上を図る 【小項目（育みたい力）】 ・英語活用能力 ・読解力 ・読解力リテラシー ・科学的リテラシー ・英語運用能力 ・その他	基礎学力の定着	継続	自学自習時間を増やす取組み 進学講習の実施	学習状況調査の実施 進路HRの実施 講習参加者数	3回 各学年5回 延べ1258名	3回 各学年5回 延べ720名	3回 各学年5回 816名	B	各学年の自学自習時間 1年・2年平日の平均自学自習1 時間未満の割合 アンケートによる生徒の評価 （講習満足度）	1年62分2年99 分3年204分 1年37%～46% 2年10%～23% 3年講座別授業 満足度85%	1、2年90分、3年180 分 1時間未満30%以下 満足度80%以上	1年77分2年83 分3年205分 1年20%～36% 2年22%～33% 3年講座別授業 満足度95.5%	B	継続	校訓五綱領（剛健・質実・自重・自治・至誠）に基づき、文武両道の教育方針で、勉強と行事と部活動の3本柱をめざしている。組織的な学校運営を進め、PTA、同窓会も協力し、各組織が学校経営計画に基づく目標をPDCAサイクルの効果的な運用により各取組を実践している。部活動や学校行事が盛んなため、生徒の自学自習の定着が課題であり、放課後8時までの自習室開放、予備校の自習室の活用など、様々な策を講じ改善に努めた結果、1年3年で成果が出てきている。また「生野高校生スタンダード」を生徒に与え、モデルを示し、自己評価させる取組は優れており、今後も継続し進展させてほしい。	A		
		言語活用能力 ICT活用能力	充実	プレゼンテーション能力の向上	プレゼンテーション発表者数 （校内・校外）	校内：当該生徒全員560名 校外：58名	校内400名 校外20名	校内：560名 校外：225名	A	アンケートによる生徒の評価 （達成感・満足度）	2年生の発表会を見た1年生の満足度93%	80%以上	98%	A	充実				
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはくくむ 【小項目（育みたい力）】 ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協働性 ・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	違いを認め共に生きる力	充実	異文化理解教育の推進	海外スタディツアー・サイエンスツアーの参加者数	ツアー44名 台湾交流2回 海外修学旅行 アフリカ教員による理科授業】	42名	語学7-32名 理科7-24名 GLHS研修2名 韓国釜山4名	A	アンケートによる生徒の評価 （肯定的意見）	スタディツアー96% サイエンスツアー100%	90%以上	スタディツアー93% サイエンスツアー95%	A	充実	オーストラリアへのスタディツアーは希望者も多く、サイエンスツアーとともに参加者の満足度が高いものとなっている。台湾、韓国、アフリカと多地域にわたって国際交流が実施され、異文化理解の促進ができてきている。生徒の主体的な参加をきっかけに学校が経営されていることや、生徒が自らの気づきの中で考える学びのサイクルが構築されている点も優れている。自治会を巻き込みながら生徒の自主性を育てていくのが、生野高校の「次のステージ」につながるのではないかと、学習・部活動の両立の数が2年で伸び悩んでいるが、成果もあがっており、継続して学校全体で取り組んでほしい。	A		
		共感力、協働性、健康・体力を育む	継続	部活動・学校行事の活性化	自治会による部代表者会議 及びリーダー研修会実施による所属集団への貢献と自己目標追求の姿勢を涵養 学校行事に進んで参加する生徒の割合	年間6回と研修 参加率85%	年間6回と研修 参加率85%以上	年間6回と リーダー研修 参加率88%	B	学校教育自己診断による生徒の評価 （達成感・満足度）	両立63% 行事満足度85%	学習・部活動両立60%以上 行事満足度・達成度85%以上	両立55% 行事満足度88%	B	継続				
	高 い 志 を は く く む 、 進 路 実 現 を め ざ す 【小項目（育みたい力）】 ・規範意識 ・高い志 ・その他	規範意識	充実	欠席・遅刻を減らす取組み	教員の一致した指導	日常的な指導	保護者との連携及び生指部による段階的指導	保護者との連携及び生指部による段階的指導	B	欠席者数 遅刻者数	欠席者2185 遅刻者4485	欠席者前年度以下 遅刻者前年度比1割減	3年延べ欠席数2606 延べ遅刻総数2853	B	継続	遅刻を減らし「規律ある進学校」として、規範意識の育成に努めた結果、遅刻者数が減少し成果が上がっている。今後、欠席者の減少を含め生徒の自覚がさらに高まるような指導を期待する。普通科の中に1クラス設置するSSHコースは文理学科とあわせて、対象生徒がGLHSの中で最も多く、学校全体で課題研究に取り組んでいる。今後は卒業生なども活用して、進学だけでなく、広く世界に目を向けるような生徒の視野を広げる取組を行ってほしい。	A		
		高い志を育む	継続	国公立大学へのキャンパスツアー 卒業生等による講演会 リーダー講習会 地域清掃等ボランティア活動	キャンパスツアー参加者数 講演会の回数 講習会の参加者数 地域清掃活動の回数	キャンパスツアー148名 講演会6回 講習会77名 保健委員等が地域清掃3回実施	参加者50名 講演会5回 参加者80名 地域清掃2回	キャンパスツアー1年360名 1人2校 阪大20名、 京大22名 講演会2回 講習会80名 地域清掃4回	B	アンケートによる生徒の評価 （肯定的意見）	京大キャンパス満足度90% 講演会満足度2年94% 講習会満足度100%	80%以上	京大Cが1'満足度95.2% 講演会未調査 講習会3月実施	B	継続				
		授業力の向上	充実	校内における研究授業の実施 授業の相互参観	研究授業の回数 相互参観の教員参加率	国社数理解英で実施 教諭の85%が平均4.4回公開 6.3回見学実施	各教科1回以上 全教員	国社数理解英で2回以上実施 86%（平均3.1回 最多15回）	B	授業評価による授業理解度	2年75%	1年70%以上 2年80%以上 3年85%以上	1年80.4% 2年78.0% 3年84.9%	B	継続		「探究I」の授業では、生徒が自主的に学び、評価しあっており、満足度も高いと思われた。まずは他の授業にもこのような取組を活かしてほしい。教科ごとに取組計画、課題、評価指標と自己評価を書く「IKUNO学習スタンダード」を作成や、年2回実施する授業評価を活用した取組や研究授業・相互授業参観のなど、学校として授業力向上に努めており、評価できる。校長が様々な手立てを講じ、マネジメント力を発揮していることから、今後は生徒のさらなる伸長を期待する。	A	
	授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	教諭の31名が平均1.8回実施	前年度並み	夏期2ヶ国英理8名 GLHS研修数英5名 3月数英実施	B	授業評価による授業理解度	2年75%	1年70%以上 2年80%以上 3年85%以上	1年80.4% 2年78.0% 3年84.9%	B	継続					
	知 識 基 盤 社 会 を リ ー ド す る 人 材 の 育 成	共通評価項目	総合的な学力の測定	学力診断共通テストの結果							学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-				スコアの伸びがみられ、とくに英語活用能力についてはめざましい伸びは、大いに評価できる。	-	
			読解力リテラシー 科学的リテラシー	全国規模のコンクール・コンテスト等の実績								科学系オリンピック・コンテスト等の参加者数	75名	前年度並み	78名	A		各コンクールに積極的に参加しており評価するとともに、今後は入賞を果たすなど、さらなる成果を期待する。（別紙参照）	-
英語運用能力			英語によるコミュニケーション能力の育成								2年生終了時点での英検2級の資格取得率	41.7%	50%	28.9%	C		英検からTOEFLに移行する中で受験者の減少があったであろう。今後の取組に工夫改善を求めたい。（別紙参照）	-	
進路実現			3年間を見通した進路指導									進路希望達成率	61.3%	65%	71.4%	A		大学入試センター試験の5教科7科目の受験者のうち80%以上得点したものが増加しており、一定の評価はできる。ただ、全国平均の110%以上の割合はとくに理系で到達できなかった点について、要因を分析し対策が必要である。大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数についても、割合を高めるよう、指導していることは予測できるが、GLHSが文理ともに充実した教育課程を実施していることから、今後も継続して指導されたい。	-
			大学入試センター試験の参加									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点が全国平均（90点満点）の110%以上の割合	58.7%	60%	53%	C			
進学実績			大学入学者数									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数（割合）	78.7%	80%	78.0%	B		京大・阪大・神大・大教大・市大・府大の合格者数、国公立大学現役合格者数（割合）ともに目標値のほぼ達しており、高いレベルでの進学実績が示されたことを評価する。さらに、高い志をもつ生徒への継続的な指導の実施を期待する。	-
										京大・阪大・神大・大教大・市大・府大の合格者数	141名	150名	147名	B					
											国公立大学現役合格者数	135名	-	142名					
										海外大学現役合格者数	0名	-	0名						
総合評価	校長のリーダーシップのもと、組織的な学校運営を進め、PTA、同窓会も協力し、各組織がPDCAサイクルを活用した効果的な取組が実践できている。文武両道の教育方針で、勉強と行事と部活動の3本柱を重視しているため、生徒の自学自習の定着が課題であるが、放課後8時までの自習室開放、民間教育機関の自習室の活用など、様々な策を講じ改善に努めた結果、1年3年で成果が出てきていることは評価に値する。また「生野高校生スタンダード」を生徒に与え、モデルを示し、自己評価させる取組はとりわけ優れており、今後も継続し進展させてほしい。														A				

進学指導特色校（GLHS）の事業評価について 府立北野高校 平成25年度評価シート

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会 評価の基準	AA…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	----------------	---

資料2-7

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価委員会の評価					
																コメント	評価				
各 学 校 自 立 の 取 組	確かな学力の向上を図る	言語活用力 ICT活用力	充実	プレゼンテーション 能力の向上	「国際情報」における発表 の参加人数	100%	文理学科1年 160人	100%	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 94%	参加者の 100%	94%	B	維持	A	目標値並びに前年度実績がともに高く、実際に高い レベルで実践できている。加えて、それぞれの取組を さらに充実させるべく、内容を再編しようとしている 姿勢は評価できる。 学習合宿ではチームビルディングによる人間関係づ くりや、大学生との交流なども取り入れ、学力向上・ 自主的な学習習慣の定着について、多面的に構築しよ うとしている点などよい試みである。 土曜講座については、TOEFL対策講座を導入する などハイレベルの内容が多くなったため、生徒の満足 度が低くなったと聞くと、高い学力層の生徒が多く入 学してくる中、さらに高い目標を持つような仕掛けを 作るなど、新たな事業に取り組んでおり、内容、目標 設定、実績ともに高い評価が妥当と考える。				
		学力向上・自主的な 学習習慣の定着	再編	宿泊研修の実施	参加人数	100%	文理学科1年 普通科1年 各160人	100%	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 93%	参加者の 95%	92%	B	充実						
		きめ細かな学力の 向上	充実	土曜講座の実施	参加人数	全校生徒の 90%	全校生徒の 90%	84%	C	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 66%	参加者の 70%	41%	C	再編						
	豊かな感性と、たくましく 生きるための健康と体力を はくむ	違いを認め共に 生きる力の育成	維持	異文化理解教育の実施	海外の高校へ訪問した人数 と受け入れた人数の合計	51人	80人	131人	A	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 100%	参加者の 100%	97%	B	維持	AA	文武両道の校風から、知・徳・体の健全な育成をめ ざし、部活動と勉強のバランスを重視している。勉強 だけでなく、体育の縄跳び・持久走など北野の伝統と して継続しているところを評価する。 また、異文化理解教育についても、海外の高校との 交流の充実、TOEFL iBT講座の実施、オールイン グリッシュによる「学内留学」など、いずれも高いレ ベルで実施している。 目標が高く設定されているにもかかわらず、おおむ ね計画どおり実施されており、高い評価をうけるにふ さわしい取組と考える。				
		体力・精神力の育成	維持	部活動の充実	部活動参加人数と実績	899人（生 徒の93%） 近畿大会以上 11件	900人（生 徒の93%） 近畿大会以上 15件	955人（生 徒の99%） 近畿大会以上 11件	A	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 93%	参加者の 95%	91%	B	充実						
		バランスのとれた 豊かな人間性の育成	維持	学校行事の充実	学校行事における生徒の 参加者数	100%	100%	100%	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加生徒の 90%	全校生徒の 90%	88%	B	充実						
	高い志をはくむ、進路実 現をめざす	高い志をはくむ	充実	各界リーダーによる講 演会の実施	OB・OGによる講演の 回数及び講座数	6回 11講座	10回 14講座	4回 30講座	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 80%	参加者の 80%	78%	B	再編	A	大阪大学基礎セミナー（単位認定）のみならず、京都 大学への研究室訪問、GLHS行事での大学訪問など、 高大連携の取組が恒常的に行われている。 「各界リーダーによる講演会」は講座数の増加か ら、一部講座内容が専門的になり、難しいと感じた生 徒もいたとのことだが、むしろ新しい試みに可能性を 感じる。 これらの取組は、充実した内容であるが、さらに再 編することであり、今後の発展に期待するもので ある。				
		キャリア教育の推進	充実	職業ガイダンス・ 学部学科ガイダンス の実施	参加人数	100%	100%	100%	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 85%	参加者の 85%	84%	B	再編						
		高大連携の推進	充実	大学におけるセミ ナー等への参加	セミナー等に参加した生徒 数	1・2年生の 59% 380名	1・2年生の 60% 380名	1・2年生の 60% 380名	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	参加者の 90%	参加者数の 95%	100%	A	維持						
	教員の指導力向上をめざす	授業力向上	充実	校内外の授業見学・ 研究の実施	授業見学・研究した人数 （%）	81%	100%	80%	B	アンケートや感想による 生徒の評価（肯定的意見）	全校生徒の 78%	全校生徒の 80%	73%	B	再編	AA	授業力向上に関しては、生徒の求める授業の水準も高 いことから、今後も継続して研究を継続してもらいた い。また、必要とする生徒には、理解度に応じた個別 の指導も有効と考える。 ICTの活用では、電子黒板に対応した教材も開発 され、教員へ広く普及していることがわかる。実際に 電子黒板を活用した授業を見学したが、効果的に使用 されており、今後のさらなる普及に期待する。 ただ、経験の少ない教員の比率も年々上がってきて おり、今後も、教員の授業に対するさらなる意識改革 の促進が必要であるとともに、授業力向上に向けたシ ステムづくりは必須であると考えられる。				
		授業力向上	維持	授業公開の実施	授業公開における保護者の 参加人数	391人	400人	388人	B	アンケートによる保護者の評価 （肯定的意見）	参加者の 98%	参加者数の 100%	99%	A	充実						
		教授法の開発	充実	電子黒板等を利用し た 授業法の開発と活用	電子黒板等を利用した人数	27人	30人	30人	B	アンケートによる生徒の評価 （活用しているという評価）	全校生徒の 62%	全校生徒の 70%	85%	A	充実						
	共通評価項目	総合的な学力の測 定	学力診断共通テストの結果							学力診断共通テストによる学力の 伸び	-	-			-		-	1年次での学びは勉強の質が変わるせいか、ややスコ アの伸長が停滞するものの、読解力と英語活用能力の スコアについて、特に2年から3年にかけて飛躍的な伸 びがみられる。			
		読解力リテラシー ・科学的リテラシー	全国規模のコンクール・コン テスト等の実績							科学系オリンピック・コンテスト 等の入賞者数	入賞者2名	入賞者2名以 上	0名 (数学オリンピック Aランク者1名)		C	充実	-	前年度以上の入賞者を目標としていたが、残念な結果 となった。また、科学の甲子園については、準優勝と なり、惜しくも全国大会を逃したが、成績としては立 派なものであった。今後も様々な分野のコンクール等 に挑戦されたい。（別紙参照）			
		英語運用能力	英語によるコミュニケーショ ン能力の育成							TOEFL iBT受験者の点数	受験者無し	受験者全員6 0点以上	0人 (TOEFL iBT Complete Test受 験者176名平均 22.2点)		C	再編	-	TOEFL iBT Complete Testながらも、多くの生徒 が参加したことは一定評価に値する。また、英検、 TOEICなど受験し、結果を出している。（別紙参 照）			
進路実現		3年間を見通した進路指導							進路第一希望現役達成率	新規	40%以上	44%		B	充実	-	学校には、高い志を維持させる良き伝統があり、そ れが装置として、いわゆる隠れたカリキュラム（ Hidden Curriculum）として機能している。志望の高 さを鑑みても、進路第一希望現役達成率が目標値を上 回り、センター試験の平均点が高くない中で、実績が 目標値に近いことは大いに評価できる。今後も妥協す ることのない、進路実現をめざす指導を続けられたい。				
		大学入試センター試験の参加							大学入試センター試験の5教科7 科目の受験者の得点率の平均	75%	80%	77%		B	充実	-	大学入試センター試験の5教科7 科目の受験者数（割合）	93.2%	95%以上	93.8%	B
進学実績		大学合格者数	難関国立大学（東大・京大・阪 大）現役・浪人合格者数						135人	150人	146人		B	充実	-	難関国立大学（東大・京大・阪大）現役・浪人合格者 数が前年値を上まわり、実績値に近いことは評価でき る。医学科志望者が多いとのことであるが、今後も 様々な分野で日本のみならず世界を動かす、グローバ ルリーダーの育成に期待するところである。					
	国公立大学現役合格者数							121名	-	142名											
	海外大学現役合格者数							0名	-	0名											
総合評価	高い学力層の生徒が多く入学してくる中、さらに高い目標を持つような仕掛けを作り、学習合宿でのチームビルディングによる人間関係づくりや、大学生との交流など新たな事業に取り組んでおり、学力向上・自主的な学習習慣の定着について、多面的に構築しようとしている点など、優れた実践である。さらに学校には高い志を維持させる良き伝統が、いわゆる隠れたカリキュラムとして機能しており、生徒の伸長を促す装置ともなっている。これからも「正しき心」「美しい魂」で社会に貢献し、様々な分野で日本のみならず世界を動かす、グローバルリーダーとなる人材の育成に努めてもらいたい。														AA						

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会評価の基準	A…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	------------	--

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																コメント	評価
各 学 校 独 自 の 取 組	確かな学力の向上を図る	・言語活用力 ・ICT活用力	継続	ディベートを取り入れた授業の実施	実施教科数	2教科	2教科	2教科	B	授業アンケートによる生徒の評価 (肯定的な意見)	-	80%	81%	B	再編	ディベートやプレゼンテーションを取り入れた授業実施など、言語活動の充実とICT活用力を向上させる取組に工夫がこらされている。とくに「委員会活動」でのプレゼンテーションの育成は「二兎を追うたくましさ」「自主自律の精神」を標榜する茨木高校らしさがあらわれており、生徒の評価も高く、さらに充実されたい。 ついでに、「北辰プログラム」やシラバスで、学びの姿勢や内容について示されているものの、今後は各教科における学年ごとの目標や取組内容をひとつにまとめた「学力育成プログラム」といったものの作成が期待されるところである。	A
		・言語活用力 ・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション能力の向上	「保健」の授業でのプレゼンテーション 「委員会活動」での生徒間のプレゼンテーション	12回	12回	14回	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	90%	90%	95%	A	継続		
		・基礎学力の向上	再編	① 卒業生による学習支援 ② 自習室の開設による自学自習の支援	実施回数	① 20回 ② 新規	① 20回 ② 60日	① 20回 ② 97日	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	-	80%	92%	A	継続		
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	・共感力 ・違いを認め共に生きる力	継続	生徒の人権委員会を中心とした多文化共生・多様性受容の取組	実施回数	年4回/学年	年4回/学年	年6回/学年	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	97%	90%	96%	A	継続	部活動単位リーダー育成プログラムでは、リーダーとなる生徒同士が育ち合うという、よい関係性が構築できている。生徒各種委員会の開催なども目標回数や生徒の満足度ともに目標を上回っており、生徒が自主自律的に活動できている点から高く評価できる。 これらの取組はこれからのグローバル人材に不可欠な「人間力」「自己管理能力」を育むものとなっており、今後も継続して実施、さらなる充実を願うところである。	AA
		・違いを認め共に生きる力 ・紛争を解決する力	充実	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	開催回数	20回	20回	22回	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	-	80%	86%	A	継続		
		・健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修Ⅲ(ｽｸｰﾙﾚｰﾅｰ事業)の実施	実施回数	年12回	年10回	12回	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	-	80%	90%	A	継続		
	高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	・高い志をはぐくむ ・規範意識	継続	リーダー研修Ⅰ・Ⅱ(リーダーの資質と規範意識の獲得)の実施	実施回数	Ⅰ 12回 Ⅱ 9回	Ⅰ,Ⅱそれぞれ 年10回	Ⅰ 12回 Ⅱ 9回	B	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	-	80%	96%	A	継続	「卒業生講座」や「学問発見講座」、京都大学や大阪大学への研究室訪問などの取組は、「母校に恩返しをしたい」という多くの卒業生の支援によるものであり、茨木高校の伝統と気風を感じさせる。卒業生が積極的に母校にかかわることが、具体的かつ、よりよい将来像の提示となっているように、生徒の志が高まり、また揺るがなくなる構造が生じている。リーダー研修Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動ともに高いレベルで実施できており、その結果として、生徒の満足度も高くなっていると考えられる。	A
		・高い志をはぐくむ ・規範意識	継続	ボランティア活動の推進	地域等の活動への参加回数	10回	10回	10回	B	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	-	80%	95%	A	継続		
		・高い志をはぐくむ	継続	卒業生講座・学問発見講座	実施講座数・実施回数	14講座 15講座 (計29講座)	14講座/年2回 (28講座)	15講座 17講座 (計32講座)	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)	92%	90%	96%	A	継続		
	教員の指導力向上をめざす	・授業力向上	継続	大学等と連携した授業力向上の取組	実施教科数	1教科	1教科	2教科	A	授業アンケートによる生徒の評価 (肯定的な意見)	85%	85%	88%	A	充実	授業力の高い教員の授業に学ぶパディシステム(互見授業)や公開授業により、授業力の向上に努める体制が整ってきている。校長が観察した授業を生徒とともに評価し、満足度だけでなく、信頼度までも評価対象とし、その結果を教員に返す仕組みは、すぐれた取組である。大学と連携し、授業力の向上に取り組んでおり、今後、教員の世代交代が進み、授業改善がさらに求められる中で、今後も継続して実施されたい。	A
		・授業力向上	継続	互見授業・公開授業の実施(生徒の満足度の高い先生に学ぶ)	実施回数	7回	7回	9回	A	生徒・保護者・教員等の評価 (満足度)	89%	85%	88%	A	再編		
	共通評価項目	・総合的な学力の測定	学力診断共通テストの結果								学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-	-	-	スコアの伸びについては、特に2年から3年の伸びが顕著である。今後は1年次での伸びを期待する。
・読解力リテラシー ・科学的リテラシー		全国規模のコンクール・コンテスト等の実績								・全国青少年読書感想文コンクール等の入賞者数(読解力リテラシー) ・全英連 全国 essay contest 入選	1名 3名	各1名	0名 2名	B	再編	essay contestでは目標を上回る入賞者が出ている。また、目標設定には記載がないが、日本情報オリンピックで上位に入賞するなど、めざましい活躍が見られた。(別紙参照)	-
・英語運用能力		英語によるコミュニケーション能力の育成								・英語によるディベートの授業を通じて「英語で発言する自信がついた」 ・TOEIC受験者の平均点	新規	70%以上 500点以上	68.4% 441点	B	再編	TOEFLを含め、目標の実現に向け、取組をの充実を期待する。(別紙参照)	-
・進路実現		3年間を見通した進路指導								進路目標維持率 (年度のはじめに立てた高い進路目標を把握し、卒業時に目標維持率を調べる)	新規	進路目標維持率75%	66%	C	継続	センター試験が難化したままであり、高得点が取りにくい現状で、得点率の目標が達成できている点は一定評価できる。今後も高い目標を堅持できるような指導に一層励んでほしい。	-
		大学入試センター試験の参加								大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率	72%	74%以上	74.1%	B	継続		
・進学実績		大学合格者数									東大、京大、阪大、神大の現役・浪人合格者数	114名	120名	118名	B	継続	難関国公立大学の現浪合格者数について、目標値には至らなかったが、前年より増加させており、評価できる。また海外の大学をめざす生徒もおり、進学が多様性についても一層進めてほしい。
										国公立大学現役合格者数	127名	-	127名	-	継続		
										海外大学現役合格者数	0名	-	2名	-	継続		

総合評価	リーダー育成プログラムでは、リーダーとなる生徒同士が育ち合うという、よい関係性が構築できている。修学旅行を含めた学校行事に生徒が主体的に運営に関わるという、自主自律的な活動が伝統的にまた日常的に確立しており、高く評価できる。大学研究室への訪問など「母校に恩返しをしたい」という多くの卒業生の支援をはじめとして、人材育成の豊かな素地があり、茨木高校の伝統と気風を感じさせる。これらの取組は今後のグローバル人材に不可欠な「人間力」「自己管理能力」を育むものとなっており、これからも継続し、さらに展開してほしい。	A
------	---	---

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会評価の基準	AA…きわめて高い成果をあげている A…成果をあげている B…取り組んでいるが工夫改善の余地がある C…取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	------------	---

事業目的	大項目	小項目	学年別の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価		
																コメント	評価	
知識基盤社会をリードする人材の育成	確かな学力の向上を図る	基礎学力の向上	継続	学習合宿 ＜対象：1年生全員＞	参加人数 内容の充実	全員参加	全員参加	全員参加	B	アンケートや感想による生徒の評価	全員参加 生徒の満足度 95%	生徒の満足度90%	99%	A	充実	「自由と創造」の校風にひかれ入学してくる生徒に対し、様々な思考力や表現力等を求める内容を含む課題を与え、「高津生」として育てていこうという取組、塾に頼った学習から、高校の学習スタイルを確立させるため学習合宿、校長が直接生徒に語りかける「校長室訪問」など、入学前を含めた早期からの学習プログラムがよく構成されている。 探究型授業の「課題研究」では、発表会をめざしてプレゼンテーション能力の向上が図られているが、今後は、ICT活用とともに、教員の指導のスキルをさらに高め、内容の充実にも努めてもらいたい。	A	
		言語活用能力 読解リテラシー 科学的リテラシー	継続	入学前の学習課題の工夫（思考力や表現力等を求める学習課題を含める）＜対象：1年生文理学科＞	課題の内容 課題供与と教科	課題7教科	課題教科数 7教科 （国社数理英+芸家）	課題教科数 7教科 （国社数理英+芸家）	B	課題の内容 新入生のアンケートや感想による評価 新入生の課題提出内容への教員の評価	全員提出 生徒の好評価90% 教員の好評価90%	生徒の好評価（90%） 教員の好評価（90%）	全員提出 生徒90% 教員90%	B	継続			
		英語運用能力	維持	英語コミュニケーション講座：KITEC（標準編）＜対象：1・2年生全員、3年生希望者＞	人数	1年生全員参加 2年生全員参加 3年生20名参加	1年生全員参加 2年生全員参加 3年生40名参加	1年生全員 2年生全員 3年生40名	A	アンケートや感想による生徒の評価	全員参加 満足度95%	生徒の満足度90%	95%	A	充実			
		言語活用能力 ICT活用能力	新規	プレゼンテーション能力の向上 ＜対象：1・2年生全員＞	文理学科2年生「課題研究」発表会の参加者数	1・2年生普通科生徒の50% （1・2年生文理学科生徒全員）	1・2年生普通科生徒の80%以上 （1・2年生文理学科生徒全員）	1・2年生普通科生徒の60%以上 （1・2年生文理学科生徒全員）	B	アンケートや感想による生徒の評価 （肯定的な意見）	新規	90% （参加者のほぼ全員）	90%	A	継続			
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	共感性 協調性	維持	①「ボランティア講座」 ＜対象：1・2年生希望者＞ ②「高津キャラバン隊（部活動でのボランティア活動）」 ＜対象：運動部及び文化部所属生徒＞	参加人数	①123名の参加 ②29クラブ、300名以上参加	①130人の参加 ②20クラブ、120名以上参加	①105人 ②全クラブ 300名以上	B	アンケートや感想による生徒の評価 ・意識変化	生徒の好評価 90%	生徒の好評価90%	90%	B	継続	生徒の自尊感情は高いものの、成績がよいところとなっている現状、また、グローバル人材育成を鑑み、もっと本質的な「自尊心」が必要との認識から、人間力の育成に力を注いでいる。ボランティア講座や高津キャラバン隊として大阪マラソンのボランティア、天神祭のごみ拾いなど地域・社会貢献活動に参加する取組は、生徒の満足度も高く、評価されるものである。 また、支援学校との交流、第5地区高校生フェスティバルでの福祉施設などのお年寄りたちとの交流では、社会との接点を重要視するとともに、自分の評価軸をたくさん持つことが可能となる取組となっている。これらのことから、豊かな心を育む体制が確立されており評価できる。	A	
		違いを認め共に生きる力	維持	東大阪支援学校との交流 ＜対象：自治会生徒及び部活動有志生徒＞	生徒自治会 参加部活動の数	生徒自治会 参加部活動数 2クラブ	生徒自治会 参加部活動数 2クラブ	2クラブ	A	参加した生徒の意識変化	100%	90%	90%	B	継続			
		共感性 協調性 健康・体力	維持	記念祭（文化祭・体育祭） ＜対象：全生徒＞	企画・準備内容 運営内容 発表内容	全クラス参加 有志発表10団体	全クラス参加 有志発表10団体	全クラス 18団体	A	アンケートや感想による生徒の評価 保護者の感想	生徒の満足度90% 保護者の満足度90%	生徒の満足度90% 保護者の満足度90%	95%	A	継続			
		共感性 協調性 違いを認め共に生きる力	充実	第5地区高校生フェスティバル ＜対象：有志生徒＞	本校参加者数 他校生徒参加数 参加学校数	生徒150名 参加校14校 聴衆250名	生徒100名 参加校15校 聴衆300名	生徒121名 参加校15校 聴衆300名	A	アンケートや感想による生徒の評価 聴衆の感想	聴衆の満足度 100% 生徒の満足度 100%	生徒の満足度90% 聴衆の満足度90%	生徒95% 聴衆95%	A	継続			
	高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	進路実現	維持	土曜講習 ＜対象：希望者＞	回数	3年19回 2年13回 1年17回	3年19回 2年13回 1年17回	3年19回 2年13回 1年17回	B	アンケートや感想による生徒の評価 出席状況	満足度90% 出席状況90%	満足度90% 出席状況90%	満足度90% 出席状況 45～88%	B	継続	大学、研究機関、企業等などの外部機関との連携、大学への研究室訪問を含めた体験型進路学習は、生徒の進路に対する動機づけとなっており有効に機能している。 また英数国を中心としたカリキュラムを設定、土曜日講習の実施など進路保障の充実が図られている。 SSH事業では韓国的高校と水に関する共同研究を継続して行い、東南アジアの高校生とも交流して、サイエンスとともに、グローバルな視野を養っている。いずれも生徒の満足度が高いが、さらなる展開に期待する。	A	
		進路実現 高い志を育む	充実	体験型進路学習 （1年生：職業探求、2年生：学問探求）＜対象：1・2年生全員＞	学習日数、 生徒による発表本数	調査・まとめ・クラス発表 全体発表（1年）、ポスター発表（2年）	学習日数5日 発表数：1 年生50本、2年生50本	5日 1年50本 2年50本	B	アンケートや感想による生徒の評価 訪問先企業または研究室の評価 全体発表会での講師の評価	生徒の満足度90% 企業・研究室好評価 90%	生徒の満足度90% 企業・研究室好評価90%	1年生98% 2年生89% 企業・研究室 96%	A	充実			
		高い志を育む	維持	外部連携（大学、研究機関、企業等との連携、公開講座・展示会・セミナー・発表会等への参加）＜対象：1年生全員＞	参加人数	1年生は全員参加 複数回参加した生徒は約150名	1年生全員参加 複数回参加した生徒数120名以上	1年生全員 150名以上	A	アンケートや感想による生徒の評価	生徒の満足度 90%	生徒の満足度90%	90%	B	充実			
		高い志を育む	充実	海外先進校（韓国・全北科学高校等）との交流 ＜対象：希望者＞	参加生徒数・校数、期間	18校から、生徒37名の参加	15校から、生徒30名以上の参加	15校 42名以上	A	アンケートや感想による生徒の評価	生徒の満足度 100%	生徒の満足度90%	100%	A	継続			
教員の指導力向上をめざす	授業力向上・教材開発	維持	教師のための講演会	参加人数	第1回 12/6 第2回 2/8	2回	1回	C	アンケートや感想による教員の評価	教員の満足度 90%	教員の満足度90%	90%	B	充実	授業力の向上に関して「小中学校の先進事例に学ぶ」方法は優れた取組である。義務教育の研究授業を観察することで、授業の組み立てなど、教員の意識改革は少しずつはあるが、進められている。また、教科を越えた授業見学、ICTの活用など様々な授業力向上に係る取組を積極的に進めていることなど、一定評価できる。 生徒には学習に取り組む姿勢について、単なる知識の習得や正解を求めることではないと常に伝え、文系理系を問わず「科学する力」を育成している観点はいいだが、今後は授業評価のさらなる有効活用で改善と工夫を求める。	B		
	授業力向上	充実	生徒による授業評価 保護者への授業公開	授業評価の全員実施 授業公開の全員実施	授業評価：教職員全員が全持ち クラスで11月に実施 保護者への 授業公開：各学年とも5月と 10月に実施	授業評価の全員実施 授業公開の全員実施	授業評価の全員実施 授業公開の全員実施	B	アンケートによる評価	生徒の授業満足度 75%	生徒の授業満足度80%	80%	B	充実				
	授業力向上	充実	教員間の授業公開と指導方法の改善	授業公開の全員実施 教科内で指導方法の改善 実施	授業公開と研究協議（国語・社会・数学・理科・英語）を2月に 実施	公開授業 全員実施 教科内研修実施 研究協議3回	公開授業 全員実施 教科内研修実施 研究協議3回	A	アンケートによる評価	生徒の授業満足度 75%	生徒の授業満足度80%	80%	B	充実				
	授業力向上	充実	小中学校の先進事例に学ぶ	訪問した校数及び参考 にした事例数、校内への 還元	小学校 1回 研究協議1回	小・中学校への訪問2校 研究協議1回、職員会議への報告 1回	1校（中高一貫校） 役員会議報告2回	B	アンケートによる評価	教員の満足度80%	教員の満足度90%	90%	B	充実				
共通評価項目	総合的な学力の測定		学力診断共通テストの結果							学力診断共通テストによる学力の 伸び	-	-	-	-	-	1年次から2年次のスコアの伸びを堅調に維持し、さらに伸長させている点は高く評価できる。とくに英語運用能力の伸長はめざましい。	-	
	読解リテラシー 科学的リテラシー		全国規模のコンクール・コンテスト等の実績							各コンクールの入賞者数	新規	5本	3本	B	充実	入賞数は目標を下回ったものの、2年生がSSH生徒研究発表会ポスター発表賞を受賞するなど、内容の充実とともに、参加者数の多さは突出しており、高く評価する。（別紙参照）	-	
	英語運用能力		英語によるコミュニケーション能力の育成							実用英語検定試験の受験者数	新規	200名	400名	A	維持	英検は目標値を大いに上回り、合格者も2級33名準2級266名と健闘している。今後はTOEFLへの取組に期待する。	-	
	進路実現	3年間を見通した進路指導									進路希望達成率	60%	60%	64.9%	-	-	大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率80%以上の割合、大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数（割合）ともに向上しており、今後の充実がさらに望まれる。	-
		大学入試センター試験の参加									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者の得点率80%以上の割合	6.9%	10%	13%	A	充実		
	進学実績	大学合格者数									大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数（割合）	70%	75%	80%	A	維持		
											難関国立大学（京大・阪大・神大） 現役・浪人合格者数	35名	50名	56名	A	-	難関国立大学（京大・阪大・神大）現役・浪人合格者数の伸長、とくに現役生伸びは評価に値する。ただ昨年の実績が低かったこともあり、今後は、今年の伸長を安定、さらに伸長されることを期待する。	-
										国公立大学現役合格者数	93名	-	119名	A	-			
										海外大学現役合格者数	0名	-	0名	-	-			

総合評価	グローバル人材育成を鑑み、本質的な「自尊心」が必要との認識から、社会との接点を重要視するとともに、自分の評価軸をたくさん持つことの大切さを示し、豊かな心を育む体制が確立されている。ボランティア講座や高津キャラバン隊として大阪マラソンのボランティア、天神祭のごみ拾い、支援学校またお年寄りたちとの交流など、多様な実践は評価に値する。授業力の向上に関する取組も「小中学校の先進事例に学ぶ」方法など、特色がある。「自由と創造」の校風にひかれ入学してくる生徒を3年間で伸長させる組織は整いつつあるものの、授業評価のさらなる有効活用や進路実現への働きかけには検討すべき余地も見られ、今後の充実に期するものである。	A
------	---	---

自己評価の基準	A…計画以上 B…概ね計画どおり C…計画以下	評価審議会 評価の基準	A A…きわめて高い成果をあげている A …成果をあげている B …取り組んでいるが工夫改善の余地がある C …取組の見直しが必要である
---------	-------------------------------	----------------	---

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	評価	本年度の取組方針	評価委員会の評価		
知識基盤社会をリードする人材の育成	確かな学力の向上を図る	1. 基礎学力及び自学自習力の向上	継続	①勉強合宿の実施（1・2年生） ②土曜クラブの充実 ③成績不振者講習の実施（1・2年生）	・参加人数 ・チューターによる懇談回数 ・実施回数（実施教科）	・合計113人 ・年間10回 ・年間65回	・100人 ・年間3回以上 ・学期に10回以上	・82人 ・9回 ・年間に83回	A	・アンケートや感想 以上 ・1, 2年生での自学自習を2時間以上行う生徒の割合・補充講習出席率	・勉強合宿 肯定的評価 1年84% 2年98% ・1年37% 2年37% ・100%	・95% ・50%以上 ・100%	・勉強合宿肯定的評価100% ・1年42% 2年44% ・100%	B	継続	補習対象者のうち、何らかの刺激があれば、勉強できる層が8割、2割は学習の前提が不十分であり、授業も含め十分な手立てが必要であるとの分析から、組織的に問題意識をもって改善し、さらに向上させている。		
			新規	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内、発行記録シート指導 ・評論文の要約提出、添削指導	・読書案内発行 記録シートは新規 ・新規事業	・年間1回 内容充実 ・隔週提出	・「月下水人」発行1回 ・毎週実施 ・記録シート指導・評論要約提出	・読書シート提出による自主読書量 ・提出添削指導回数	A	・新規	・1年で1学期に5冊以上 ・指導回数年間15回以上	・1年次で平均18冊程度 ・1年次で18回達成	A	再編	グローバルリーダー育成のために英語力、理数力、メンタリティをつける指導を重視しており、外部機関と連携し、TOEFL講座をSKYPEで実施するなど良い取組である。入学時英語ができなかった生徒が、GLHS合同発表会で英語の発表ができるまで力をつけた例や、TOEFLjr、TOEFLチャレンジの受験者増など成果が表れている。自習室の開放も休日まで拡大し、勉強合宿等、生徒の評価が高い。読書指導など様々な取組で実績を上げており、高い評価に値する。		
			再編	⑥「SSH課題研究」及び「CS研究」などの充実 ⑦プレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究Ⅰ・Ⅱの充実 ・情報関連科目プレゼンテーション実施 ・SSH発表会等プレゼンテーション	・10回 ・継続実施 ・全員2回 ・年間5回	・8回 ・毎週の継続の実施 ・全員2回 ・年間5回	・12回 ・毎週実施 ・1年1回、2年CS探求2回 ・6回	・「SSH課題研究」及び「CS研究」の発表回数 ・運営指導委員会での評価 ・実施後のアンケートや感想	A	・口頭4回 ・ポスター5回 ・肯定的感想が大半	・口頭6回 ・ポスター4回 ・肯定的感想が大半	・口頭6回 ・ポスター4回 ・肯定的感想が大半	A	継続	なほ、実績値については「大半」などでなく、数値化できる取組指標をあげ、あくまで値で示されたい。		
			充実	⑧TOEFL講座の継続実施 ⑨使える英語の特別レッスン	・実施回数 ・実施回数	・校内開催 10回 ・文系・理系のべ8回	・校内開催 0回 ・文系のみ のべ8回	・講座参加人数 ・英語資格試験(TOEFL等)受験者数 ・特別レッスン参加者数	・講座参加48人 ・TOEIC 166人 ・TOEFLjr 希望者数46人 ・延べ72人	・講座参加人数 40人 ・TOEIC受験者数100人 ・TOEFLjr受験者数5人 ・延べ80人	B	・講座参加48人 ・TOEIC 162人 ・TOEFLjr 12人 ・TOEFLチャレンジ30人 ・延べ70人	・講座参加48人 ・TOEIC 162人 ・TOEFLjr 12人 ・TOEFLチャレンジ30人 ・延べ70人	A	再編	文武両道・切磋琢磨などの「三丘スピリット」ともいうべき校風を大切にしながら生徒指導や進路指導を行っており、高い加入率を誇る部活動、学校行事など伝統に根差した活動ができています。		
	豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力を大きく育む	5. 違いを認め共に生きる力の育成（異文化・国際理解）	充実	⑩海外スタディ・ツアーや海外サイエンス・ツアー等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・スタディツアー参加人数 ・サイエンスツアー参加人数 ・留学生受け入れ人数 ・交流受け入れ人数	・30人 ・6人 ・1人 ・102人	・30人 ・6人 ・10人 ・50人	・60人 ・7人 ・1人 ・87人	A	・スタディツアー応募者数 ・アンケートや感想による生徒の評価（肯定的な意見）	・応募者71名 ・肯定的評価 100% ・1人 ・102人	・応募者45名 ・肯定的評価100%	・応募者72名 ・肯定的評価 100%	A	再編	文武両道・切磋琢磨などの「三丘スピリット」ともいうべき校風を大切にしながら生徒指導や進路指導を行っており、高い加入率を誇る部活動、学校行事など伝統に根差した活動ができています。		
			継続	⑫地域ボランティア活動への参加	・三国丘幼稚園世代間交流「なかよし広場」の参加人数 ・地域中学校へ科学教室の実施	・37人参加 ・29人の中学生を理科系4クラブで実験等指導	・30人 ・30人	・39人参加 ・29人の中学生を理科系3クラブで実験等指導	A	・アンケートや感想による生徒の評価（幼稚園ボランティア） ・アンケート等参加者の評価（三国丘科学教室）	・肯定的感想大半 ・29名 肯定的評価100%	・肯定的感想が80%以上 ・参加者の肯定的意見80%以上	・肯定的感想が大半 ・肯定的評価100%	A	充実	ボランティア活動については地元の小中学生と連携、災害時の避難所を意識して、地域ボランティア・地域交流を実施しており、内容の充実がうかがえる。		
			継続	⑬部活動の振興と学校行事の充実 ⑭芸術家派遣事業の実施	・部活動加入促進 ・学校行事（文化祭、体育祭、芸術祭、マラソン大会）実施 ・1, 2年全員の参加	・1, 2年間で95% ・全てプログラム通り安全に無事故で実施 ・1, 2年全員の参加	・95% ・内容充実 ・1, 2年全員の参加	・1, 2年間で95% ・全てプログラム通り安全に無事故で実施 ・1, 2年全員の参加	A	・大阪府代表や近畿全国大会への参加・出場件数。他生徒の評価 ・アンケートや感想による生徒の評価	陸上部3件、柔道部、硬部の5件の近畿大会、空手部アジアチャンピオン、空手部インターハイ等7件	・5件 ・肯定的評価90%	陸上、硬式庭球、空手、柔道、書道の6件の近畿大会、空手部団体優勝、インターハイ2位、世界チャンピオンを含めて9件	A	充実	「進路語り場」（卒業生参加のフリートーク）を行うなど卒業生を活用し、進路意識を高める取組を行っている。人材養成プログラムを作成し、3年間を見通した学習指導、学校行事など教育活動の意義が位置づけられ、センター試験への指導体制も構築されてきている。大学や社会の最先端に触れさせる「三丘セミナー」、医療機関でのインターンシップ、大学研究室訪問など、生徒に将来像を描かせる機会を与えており評価できる。		
	高い志を大きく、進路実現をめざす	8. 高い志を育み進路実現をめざす	継続	⑮社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セミナー」や「三丘カレッジ」の実施・充実 ⑯東京方面サイエンス・キャンパスツアーの実施 ⑰大学1日訪問の実施 ⑱医療インターンシップの実施	・講座（講演）の開催回数 ・参加人数	・三丘セミナー、三丘カレッジ、科学講演、医療セミナーなど28講座 ・50人・132人 ・82人	・25回 ・30人 ・50人 ・50人	・H25 174人（現役102人） ・H25 5人（現役3人） ・90%以上	A	・難関国公立大学（10大学）への進学者数（東大、京大、阪大、北大、東北大、名大、九大、神大、市大、府大） ・国公立大学医学部医学科進学者数 ・アンケートや感想による生徒の評価	・H25 174人（現役102人） ・H25 5人（現役3人） ・90%以上	・185人以上（現役115人以上） ・5人以上 ・90%以上	・H25 156人（現役77人） ・H25 14人（現役6人） ・99%	C	充実	「進路語り場」（卒業生参加のフリートーク）を行うなど卒業生を活用し、進路意識を高める取組を行っている。人材養成プログラムを作成し、3年間を見通した学習指導、学校行事など教育活動の意義が位置づけられ、センター試験への指導体制も構築されてきている。大学や社会の最先端に触れさせる「三丘セミナー」、医療機関でのインターンシップ、大学研究室訪問など、生徒に将来像を描かせる機会を与えており評価できる。		
			継続	⑲遅刻指導の徹底 ⑳朝のあいさつの奨励 ㉑リーダーズ研修の実施	・生指部による校門指導と担任、教科担当の指導 ・年間2回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間8回実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間2回の実施	・校門指導を日常的に実施 ・年間11回実施	A	・1日1クラスあたりの遅刻人数	・1日1クラスあたり0.62	・0.5人未満	・1日1クラスあたり0.6	B	継続	規範意識の醸成については、遅刻者の減少に取り組み、目標値には達しなかったが、今後も継続した指導を求めるとのことである。		
	教員の指導力向上をめざす	10. 授業力向上	充実	㉒授業評価 ㉓授業改善の取組 ㉔授業観察フィードバックの保護者への授業公開 ㉕公開研究授業及び研究協議 ㉖ICT機器（プロジェクタ等）活用した授業研究 ㉗他校実施の研究授業参加 ㉘民間教育産業連携によるスキルアップ研修参加	・授業評価年間2回実施 ・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・参加人数	・年間2回実施 ・全教員提出 ・フィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修4回 ・見学実施講座10講座 ・15人	・6月、11月実施 ・全教員提出 ・全員にフィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修4回 ・校研修23名 ・予備校59名	・2回の授業評価 全教員平均87%	A	・授業アンケートによる授業満足度	・80%以上	・2回の授業評価 全教員平均86%	A	継続	授業改善シート、ICTの活用、公開授業なども実施され、授業改善が着実に進んでいる。全教室、学習室に電子黒板機能付きプロジェクタが設置され、全教員の教員が積極的に活用している。授業評価実施とともに、改善シートによる振り返りがなされ、生徒の授業満足度も、時が経つとともに高まっている。			
継続			㉙新旧3年担任を中心とした進路指導研修の実施 ㉚各学年業者模試実施後の研修実施 ㉛センター試験分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	・1回実施 ・4回実施 ・1回実施	・年間1回実施 ・年間3回実施 ・年間1回実施	・1回実施 ・4回実施 ・1回実施	A	・難関国公立大学進学者数（東大、京大、北大、東北、名、九、神、市大、府大） ・国公立大学医学部医学科進学者数	・H25 174人現役102人 ・H25 5人現役3人	・185人以上 現役115人以上 ・5人以上	・156人（現役92人） ・14人（現役6人）	C	継続	また、他校で実施される研修や予備校への授業研究への参加など、学校全体で組織的に授業改善に取り組んでいる。これらのことから授業改善について評価できるが、今後、教員の世代交代がさらに進むことから、初任者、転入者に対する指導の支援を一層確立されたい。			
継続			㉜校内研修の実施	・研修実施回数	・5回実施	・3回	・7回実施	A	・初任者、転入者に対する生徒の授業満足度の向上	・7人の平均 2.7%向上 1回87.6% 2回90.3%	・授業アンケート肯定的回答率 2%以上の向上	・7人の平均 4.1%向上 1回80.9%2回85.0%	A	継続				
共通評価項目	13. 総合的な学力の測定	学力診断共通テストの結果								学力診断共通テストによる学力の伸び	-	-	-	継続	実施科目のなかで、特に英語運用能力の伸長にはめざましいものがある。			
		14. 読解力リテラシー-科学的リテラシー	全国規模のコンクール・コンテスト等の実績							・科学系2件 理化部 ・SSH・文科系1件 社研部	・科学系2件 ・文科系1件	・科学系3件 ・文科系2件 ・社研部	A	継続	科学系、文科系ともに全国レベルの大会で発表するなど、活躍が評価できる。（別紙参照）			
		15. 英語運用能力	英語によるコミュニケーション能力の育成								TOEIC・TOEFLjr等の受験者数	213人	・200名以上の維持	204人	B	再編	TOEICについては多くの生徒が受験しているが、今後はTOEFLの受験者数の伸長を期待する。（別紙参照）	
		16. 進路実現	3年間を見通した進路指導									6大学（東京・京都・大阪・神戸・大阪市立・大阪府立）の進学希望達成率	35%	・40%	33.3%	B	継続	6大学（東京・京都・大阪・神戸・大阪市立・大阪府立）の進学希望達成率は惜しくも目標値を達成できなかったが、大学入試センター試験の5教科7科目の受験得点率80パーセント以上の者（割合）など、目標が高いにもかかわらずよく健闘しており、高く評価される。
			大学入試センター試験の参加									大学入試センター試験の5教科7科目の受験得点率80パーセント以上の者（割合）	13.7%	・18%	22.3%	A	継続	
												大学入試センター試験の5教科7科目の受験者数（割合）	85.2%	・88%	86.4%	B	継続	
		17. 進学実績	大学合格者数									6大学（東京・京都・大阪・神戸・大阪市立・大阪府立）の現役合格者数	164人	・170人	145人	C	継続	6大学（東京・京都・大阪・神戸・大阪市立・大阪府立）の現役合格者数、国公立大学現役合格者数（割合）ともに、目標が高く、実績値は目標を下回ったものの、高い志を維持させるよう、今後も指導されたい。
										国公立大学現役合格者数	123人	135人（45%）	116人	B	継続			
										海外大学現役合格者数	0人	・1人	-	継続				
総合評価	グローバルリーダー育成のために英語力、理数力、メンタリティをつける指導を重視しており、TOEFLjr、TOEFLチャレンジの受験者数の増加など成果が表れつつある。三丘エクセレンスの自習室の開放も土曜日のみから日祝日実施へと拡大し、勉強合宿、読書指導など様々は取組が基礎学力の向上につながっている。また、人材養成プログラムを作成し、3年間を見通した学習指導、学校行事などそれぞれの取組がどういった意味をもっているのか、位置づけが行われ、目的を明確にした教育活動が展開されている。卒業生の協力のもと、大学や社会の最先端に触れさせる「三丘セミナー」、医療機関でのインターンシップ、大学研究室訪問など、生徒に将来像を描かせる機会を与えており評価できる。国の事業スーパーグローバルハイスクールにも指定され、今後ますます、グローバル人材の育成に努められたい。															A		